

## ◆第1回FD研究会

## 1. 開催概要

テーマ	学生の学びを促す教授法 ～ 表面的な学習をさせない工夫 ～
開催日時	2015年7月23日(木) 13:30～15:30
発表者	中井 俊樹 氏   愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 教授

## 2. 開催趣旨

大学全入時代に突入し、大学教育の質の低下が懸念される昨今、大学は、学士レベルの資質能力を備える人材の養成に向けての様々な取り組みや施策の実行が迫られております。その中で、学生の主体的な学びを実現するための授業方法については、様々な手法が開発されているものの、教育現場への普及は思った以上に進んでいないのではないのでしょうか。今回は、愛媛大学の中井俊樹先生をお招きして、その具体的手法を学び、大学教員の教育力向上を目指したいと思っております。

## 3. 当日の様子



## 4. 参加者の感想

- ・ 具体的な事例をあげて頂いて、授業の設計や運営について考えることができ、これからの授業に役立ちそうに思った。
- ・ 秋学期から活かせる内容で、大変役に立ちました、グループで考えることで考えがより深まったと思います。また発問の仕方についても、秋から今まで以上に使おうと思います。ありがとうございました。
- ・ 発問の重要性について学べたことが有用でした。
- ・ 4人グループで、いくつかの課題について話し合いがあり、報告する機会を設けられ、相互の交流に役立った。

## ◆第2回FD研究会

## 1. 開催概要

テーマ	グループワークをはじめよう！	
開催日時	2015年10月29日(木) 15:15~17:15	
発表者	中野 民夫 氏	ワークショップ企画プロデューサー 東京工業大学 教授

## 2. 開催趣旨

昨今、アクティブラーニングの普及に伴い、グループワークが導入されることが多くなりました。グループワークは学習効果を高めるための有意義な手法ですが、反面、適切に運用されなければ、単なる「話し合い」に終わる場合もあります。今回のFD研究会では、学生の生身のコミュニケーション力や主体性を育む「参加型授業」を創るファシリテーションのポイントを学びます。

## 3. 当日の様子



## 4. 参加者の感想

- ・ 少人数講義、アクティブラーニング、ファシリテーションは現代において必須であり、先駆者でもある中野民夫先生の話聞くことができとてもよかった。
- ・ 学生主役での取り組み方を信じるのが大事ですね。手間もかけての授業づくり、その思想とテクニックを教えていただけましたと思います。
- ・ 大人数教室でのグループ学習のヒントが得られた。
- ・ グループワークの進め方やポイントがよくわかり、大変有意義でした。

## ◆第3回FD研究会

## 1. 開催概要

テーマ	学びをサポートするTAの活用方法	
開催日時	2015年11月4日(水) 17:00～18:30	
発表者	岡崎 祐司 先生	佛教大学 社会福祉学部 教授 教育推進機構長
	松本 真治 先生	佛教大学 文学部 教授 学生支援機構長
	大西 気絵 氏	ティーチング・アシスタント(佛教大学 文学研究科 英米文学専攻)

## 2. 開催趣旨

本学のTA制度は、平成13年に運用開始され、これまでに多くの実績を残しています。しかし、平成23年の中央教育審議会の「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～」(答申)において、「TAの組織的な活用」と「大学教員の養成としてのTA」について提言があったことをうけて、わが国のTA制度の在り方が変わりつつあります。

そのような動向もふまえて、今回の研修では、教育効果を高めるため、TA活用方法について理解を深めたいと思います。

## 3. 当日の様子



## 4. 参加者の感想

- ・ 具体的なTA活用事例がとても分かりやすかった。大変参考になりました。ほかの先生方のご経験もぜひ参考にしたいので今後における「経験談」の集約も期待したいです。
- ・ 制度の難しさを再確認しました。TAの性格、業務の範囲など。
- ・ TAの業務内容、活用全般について皆様同じことを考えていることが分かりました。必要な制度であることも確認できました。

## ◆第4回FD研究会

## 1. 開催概要

テーマ	どうする！？入門ゼミ ～実践事例報告会～	
開催日時	2015年11月11日(水) 16:30～18:00	
発表者	伊藤 真宏 先生	佛教大学 仏教学部 准教授
	山崎 寛士 先生	佛教大学 歴史学部 准教授
	井上 洋平 先生	佛教大学 社会福祉学部 准教授

## 2. 開催趣旨

本学では、初年次教育の柱として「入門ゼミ」という科目を全学で設置しており、レポートの書き方、リテラシー、キャリア教育等、大学生および社会人として必要なスキルを養う科目として位置付けされている。また、本学のディプロマポリシーを達成するための重要な科目でもある。しかしながら、各学部によって「最低限必要な能力」の位置づけが異なることや、全学共通シラバスによる不合理性、更には、図書館の使い方やキャリア教育といった各先生方の専門領域から離れた分野までが授業内容に含まれる事などから、授業運営に相当の労力を費やしているという声を耳にする。

今回のFD研究会ではそのような多様な課題を抱える「入門ゼミ」について、工夫を凝らした授業運営をされている先生からの実践報告やディスカッションを通して入門ゼミの発展に向けた足がかりとしたい。

## 3. 当日の様子



## 4. 参加者の感想

- ・ 個々の先生方が具体例(教え方もご苦労も)をあげて下さったので、こだわりのある話をうかがえて有難かったです。得にグループワークがしにくい分野(文系)ですので、何かしらの発表機会をつくりたいと改めて思いました。
- ・ 入門ゼミにもさまざまなやり方や運用方法があるということを知ることができたのがよかったです。来年度にも取り入れてみようかと思える内容もありました。ありがとうございました。
- ・ 各先生方の具体的な取り組みを知ることができて、大変勉強になりました。

## ◆第5回・第6回FD研究会

## 1. 開催概要

テーマ	学生をもっともっと学ばせる授業設計と成績評価 ～ 去年と同じじゃつまらない！ 授業を少しだけリニューアルしてみませんか ～	
	シリーズ企画① 学生の学びを促すシラバス設計の基本 シリーズ企画② 厳格な評価の必要性やその方法・ツール	
開催日時	①2015年12月3日(木) 16:10～17:40 ②2015年12月7日(月) 16:10～17:40	
発表者	佐藤 浩章 氏	大阪大学 教育学習支援センター副センター長／ 全学教育推進機構・准教授

## 2. 開催趣旨

本学ではカリキュラムの改革を控え、これまでのカリキュラムから学生の学びを中心としたカリキュラムの構築に向けて、学内で種々検討がなされている。学生の学びを中心としたカリキュラムを構築するには、学生の主体的な学びを促し、且つ学びの成果を保証する仕掛けが必要である。それらを実現するための取り組みは様々あるが、まず、学修の到達目標を明確に示し、成績評価を厳格に行なうことが必要であり、それに取り組む前提としてシラバスを再点検することから立ち戻らなければならない。

今回のFD研究会では、全2回のプログラムを経て、シラバスと成績評価の重要性を全学で共有したい。

## 3. 当日の様子



## 4. 参加者の感想

- ・ 具体的なシラバスの書き方について、指導を受けることができ、非常に満足しております。先生のシラバスを参考にして、自分のシラバスを見通していきたいと思えます。
- ・ 使用語彙が明記されているので、自身のシラバスの振り返りがしやすいです。TEAになることが自身の授業で多いように思うので、来学期はEATで実施できるように検討したい。佐藤先生のお話が聞けて、とても勉強になりました。
- ・ 評価について自己流でやっていたのが、系統だって適切に教えて頂き、問題となる部分を学ぶことができた。改善するべき点が具体的に把握でき、大変役に立つ研修会であった。
- ・ 評価は学生にとっては一番の関心事であり、教師側には大きな責任のあるものと、日々悩んでいました。ルーブリックを教えていただき、トライしてみようと思いました。ありがとうございました。